



まつい 松井 けんいち 健一氏

「水に興味を持ったきっかけから教えてください。」

「三十数年前、旭化成工業（現旭化成）で繊維や気泡コンクリートの製造を手がけていた時、製品のバラつきに悩まされ

# 著者 登場

た。原料や製造条件には問題がなく、水に原因があるのではないかと考えた。それも水質ではなく、水の状態が影響しているように思えたのがきっかけだ」

—水の状態とは。

「H<sub>2</sub>Oという物質に変わりは無いが、突き詰めると、水の構造が違っている。それが製品に影響を及ぼしていると考えた。文献を調べ始めると面白くて、水の研究にのめり込んだ。すると水に関する多様な情報が入ってくるようになり、水の言葉を意識し始めた」

—科学的興味から出発したの

## 水の言葉辞典

(丸善刊、03・3272・2457)

### 日本人の豊かな感性感じる

に、この本には方言や季語などもたくさん含まれています。

「水の言葉を集めていくと日本人の豊かな感性を感じる。科学的には同じ水でも、さまざまな表現がある。四季に恵まれ、清浄な水が豊富な日本ならではのしよ。これからも美しい言葉と水を失いたくないですね」

—6500語です。 「初めはパンチカードで整理

**プロフィール**  
60年(昭35)東工大院  
理工学研究科修士修了、  
同年旭化成工業(現旭化  
成)入社。繊維や建材の研  
究所長・工場長を歴任。  
87年旭化成建材常務、93  
年旭リサーチセンター専  
務。97年退社、水環境科  
学研究所を設立し代表・  
所長。著書に『水の不思議』  
『同PARTII』  
(日刊工業新聞社刊)な  
ど。岐阜県出身、73歳。

していたが、ワープロになりパソコンになって整理しやすくなり、収集が加速した。実は本に収容した2倍以上の水の言葉と挿絵を用意したが絞り込んだ」

「辞典と銘打っていますが、五十音順ではないのですね。  
「一つの言葉を住民にたとえれば、その住民の住んでいる町・市・県という具合に分類し直した。県は気象、環境、産業、文化など九つ、市は40、町は340ある。例えば『白雨』は夕立町・雨市・気象県に住んでいる。普通の辞典に索引はないが、これには五十音順の索引を付けた」

「なぜ分類し直したのですか。  
「同じ町に住む言葉が近所に並んでいるので、関連語を知ったり、発見したりしやすいと考えたからだ。それによって読者の皆さんが新しい視点を見いだし、新しい水の言葉をつくらしめるヒントになればうれしい。引くと同時に読む辞典として利用していただきたい」

(山崎和雄)